

第15回 神戸女学院大学 絵本翻訳コンクール 奨励賞

鎌倉女学院中学校高等学校

高校1年 市川 英鈴・寺尾 凜佳・西山 凜風訳

ぞうさんのしま

ぞうのアーノルドは、ふなのりです。

アーノルドは、うみのことをともだちのようにおもっていました。でもあるひ、うみがあれて、アーノルドのふねはしずんでしまいました。ザッパーン ぼこぼこぼこ...

しかし、こううんにもアーノルドにはステキなながいはながあったので、へっちゃらです。

しばらくして、アーノルドは、とーってもちいさなしまにぶつかりました。

アーノルドは、ふなのりのふるい“し”をおもいだしていました。

「ぼくはひとりぼっち このひろいひろいうみのなか ぼくはひとりぼっち」

でもまたこううんにもアーノルドは、はなというステキなトランペットを持っていた。アーノルドが、じまんのはなでおとをかなでると「なんのきょくだい？」と、さかながききました。

「SOSだぞう。たすけをよんでいるんだぞう。」けれどもだれもきません...

アーノルドは、またしまになにかないかとさがしはじめました。すると、アーノルドのぼうしがただよってきました。

アーノルドが、ひろいあげたぼうしをかぶると、ちいさないろあせたふねが、すいへいせんからでてくるのがみえました。

そのちいさなふねにはネズミがのっていました。

「やっとたすけがきたぞう！」(バキバキバキッ バッシャー)

アーノルドは、ネズミのふねをこわしてしまいました。しかしアーノルドは、とてもいいかいけつさくをおもいつきました。それはしまをひろげることです。

ふなのりであるアーノルドは、たくさんのひものむすびかたをしていました。

まもなくして、ふなのりのいぬがほをあげているのをみつけました。

アーノルドはそっとふねにのりました。

「しまった！」またもやアーノルドはふねをふみぬいてしまいました。バキバキバキッ
バッシャー

アーノルドは、ちいさなおともだちに てつだってもらってしまをひろげました。

つぎのひのあさ、ぎょせんがたくさんのけむりとともにちかづいてきました。

またもや、アーノルドはふねをおしつぶしてこわしてしまいました。バキバキバキッ
バッシャー

うみにおちてしまったみんなは、ぶじにしまにあがることができました。

アーノルドは、つかえるものをすべてあつめてしまを広げました。

夜になると、キラキラとかがやくつきのひかりのなかで、アーノルドたちはおどりました。

そして、ひとばんじゅうクジラのうたをうたいつづけました。

すてきなうたはたちまちひょうばんになりました。

すると、ひょうばんをききつけたどうぶつたちが、アーノルドのしまにあつまってきました

た。

アーノルドは、とても かんげいしました。「いくらでもおいでよ」

しかし、あるひ そらは くらくなり、かぜ はふきあげ、うみは ごきげんななめなようです...

みんなが、アーノルドを みつめています。

「そろそろ おうちにかえったほうが、いいんじゃないのかい？」

「ちょっとまつんだぞう」アーノルドはいいました。「ぼくにいいアイデアがあるんだぞう！」